

最終更新日	2016年(平成28年) 4月12日
-------	--------------------

2016年度(平成28年度)学校評価自己評価表(案)

済美中学校区	校番 18	福山市立 瀬戸小 学校
--------	-------	-------------

I 福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

次の2点である。
 ○かかわり合いを大切にしながら、子ども同士がつながる教育活動の推進
 ○地域へのボランティア活動などを通して、自己肯定感を高め、地域貢献できる人材の育成

III 中学校区

1 めざす子ども像

《中学校卒業時、生徒につけたい力のイメージ》
 ○自ら学ぶことによって、生き方を判断するための「基礎学力」を身につける
 ○かかわり合いながら「人格の発達や豊かな人間性」を身につける
 ○目標に向かって努力し、「チャレンジ」する

2 研究主題及び主な研究内容

主体的な学びを育成するための指導の在り方
 ～言語活動の充実と生徒指導三機能を生かす指導方法の工夫～

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒

《成果》
 ○「基礎・基本」定着状況調査については小中ともおおむね理解できている。
 ○無言清掃の取組を通して、児童生徒の意識が高まり、集中して清掃に取り組む児童生徒が増えた。
 ○小中合同で挨拶運動を行うことで、連帯感が生まれ、中学校区内の一体感や挨拶に対する意識の高揚が図れた。
 《課題》
 ○全国学力学習状況調査において特に活用問題に大きな課題がある。校区の教職員の共通理解のもと、学習したことが常に自分たちの生活とどうつながっているのか、意識した授業展開をする。
 ○様々な要因により、欠席日数が30日を越える児童・生徒の割合や特別な支援を必要とする児童生徒の割合が高い。

(2) 授業

○物事を深く考え、理解するために、比較したり、分類したり、関連付け、なぜ、そのような結論になったかを考えさせる授業を行う。
 ○校区の教職員の共通理解のもと、学習したことが常に、自分たちの生活とどうつながっているのか、意識した授業展開をする
 ○子ども同士がしっかりつながり、児童生徒が主体的に学ぶ学習環境づくりを行うとともに、子どもの実践を評価し続ける。

IV 自校

1 学校経営方針

(1) 学校教育目標

自ら考え学び、貢献する子どもの育成

(2) 自校の使命(ミッション)

○自己肯定感をもち、自分から進んで学ぼうとする子どもを育成する。
 ○地域社会のために役に立ちたいという意欲をもった子どもを育成する。

(3) 自校の将来像(ビジョン)

○学ぶ意欲を育て、子どもの学力を伸ばす学校
 ○体験を重視し、子どもの感性を育てる学校
 ○地域に対する愛着と誇りをもち、貢献する子どもを育てる学校

2 研究主題及び主な研究内容

「科学的に思考し、表現できる子どもの育成
 ～実感を伴った学びと、かく活動を通して～」
 実感を伴った学びの場を設定し、理科における問題解決場面において言語活動の充実を図って、かく活動に重点を置いたりすることで、科学的なものの見方を育てる。

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒

○基礎的・基本的な知識・理解は概ね定着しているが、様々な場面への活用は不十分である。
 ○学ぼうとする意欲は出てきたが、質問したり行動化したりするまでには至っていない。
 ○あこがれの先輩の行動から学び、友達や下級生に対するやさしさが育ってきた。
 ○地域の清掃活動やボランティア活動に参加する児童が増えてきた。

(2) 授業

○算数科では、児童に課題を提示し、「めあて」を考えさせることがほぼできた。
 ○「めあて」を意識し、本時の学習を振り返ることが定着してきた。
 ○ペア学習で、反応を返したり質問したりすることは不十分である。
 ○学びに対して意欲的になってきた。

4 めざす授業の姿

○児童が疑問をもった事柄の中から課題を見つける授業。
 ○課題解決に向け、自力で調べたり考えたりして根拠をもとにまとめる授業。
 ○解決方法を全体で話し合い、友達の考えから学んだり自分の考えを伝えたりする授業。

V 目標・取組・評価指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取 組	評価指標	10月1日 □指標にかかる取組状況 ◎改善方策	力以 評価	達成 評価	2月末 □指標にかかる取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 ◎改善方策	力以 評価	達成 評価	総合評価
確かな 学力	1	基礎学力の定着を 図り、思考力・判 断力・表現力を育 む。	★	継 続	基礎・基本の学力の定着 を図る。	「めあて」と「まとめ」 を整合させる。 「ふり返り」を行う	全国標準学力検査 (CDT)の全国 平均を超える。 単元末テストで達 成率85%以上に する。							
				新 規	思考力・判断力・表現力 を育む。	予想→観察・実験→ 結果→考察の授業サ イクルを確立させる 新聞コンクールや 「生きる」美術展出 品	根拠をあげて述べ たり書いたりする ことができる児童 85%以上 出品できたか。							
豊かな 心		豊かな心の育成を 図る積極的な生徒 指導を推進する。	新 規		児童の自己肯定感を高め る。	ふり返り作文月1回 「にっこり!たまた ま箱」(給食放送でうれ しい行動を紹介)	児童の自己肯定感 (+10%)							
				継 続	小中連携を図りながら、 児童会が主体的にリード する。	「あいさつ」「無言 そうじ」ができる児 童を増やす。	達成率90%							
力量あ る教職 員		授業力と教育の専 門性を高める。	★	新 規	「関わり」「つながり」を 尊重できる授業を構想す る。	「生活科」「総合的な 学習の時間」を新たな 単元指導案に基づい て行う。	「ふるさと学習」 を展開できたか。 他学年に発信でき たか。							
信頼さ れる学 校		開かれた学校をつ くる。		見 直 し	保護者や地域とのつなが りを深め、信頼される学 校をつくる。	学校だよりやホーム ページで児童・生徒 の頑張りを伝える。	保護者の学校満足 度(85%以上) 地域に貢献できた か。							

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった

[総合評価]

評価	基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった